

正像末和讃

林 晓 宇

度衆生心ということは
弥陀智願の回向なり
回向の信樂うるひとは
大般涅槃をさとるなり

〔真宗聖典〕五〇二頁

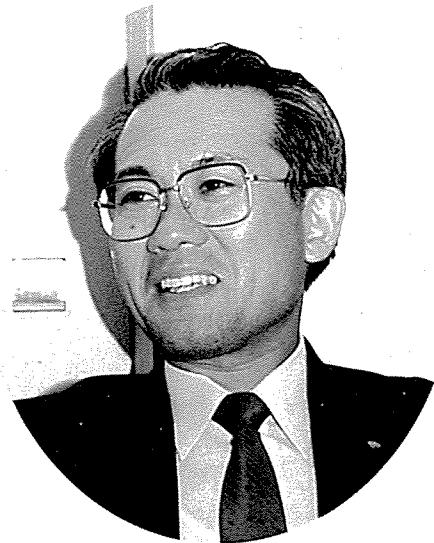
河村とし子さんはクリスチヤンの家に生まれ、小さいときから「信者即伝導者」ということをきかされて育つたという。こういう教育がわれわれ真宗門徒に欠けているのでなかろうか。「伝導」とか「教人信」などといえば「とんでもな

い。それはお坊さん方のなさることでしょ」といわれてきたなかで、「浄土の大菩提心」といわれ「願作仏の心はこれ、度衆生のころなり」とうたわれた聖人の熱いおこころを、われわれはどうのように受け止めてきたのだろうか。

徒によって教団の生命は涸渴してゆくばかりである。
先師は若かった私たちの魂に、いのちの最後の力をふりしぼって、繰り返し繰り返し「願作仏・度衆生心」と叫びつづけてくださった。「愚か者は話したがる、賢い者は聞きたがる」的な、賢者の立場を捨てし

われらが自力と思ひをる
力も他力の廻向なり
天地に満つる妙用は
自力他力と莊嚴す
他方の教をきく者がへ
人の自力ときらひをる
万善諸行の根柢に
動く他力を教へたり

〔曉鳥叢全集『清沢先生讀仰』〕



鎌田光三さん(48歳)京都府八幡市

仕事に活きてる『歎異抄』の学び

んからくりかえし出てくるこのことは、仕事での現状の厳しさと共に、打開し乗りきつっていく唯一の原動力でもあるようだ。

「僕の仕事は営業です。海上保険というのが中心ですが、今、円高で輸出企業にとって環境が悪い、設備投資や景気がかんばしくないからどんどん輸入もできない。輸入の場合は、これまで百円のものは更に安く買えるが、輸出は、円高だからといって値を上げるわけにはいかないから更に困難。そうするとダブルで保険金額は減るわけですね」

全国の54の支店と海外を結ぶO

A化により、情報は一刻も速く正確に、を要求され多忙を極める。

「ピンチとかいちばん苦しいときは、いちばん人間がじっくりとものごとを考える時なんですね。だから今がチャンスです」

25年あまり大手の損害保険会社に勤務し、現在部長である鎌田さ

をキチンと行なうことが、お互の信頼をつくっていくのです」かつて氏は高倉会館の仏青メンバーとして、寸暇を惜しんで身体を運び「歎異抄」を学ばれた。「仕事の上で、その学びが大きな示唆を与えてくれます」と、今まで時間をかけて出かける。「私をそこへ連んでくれたのは、幼いころお寺まいりにつれていつてくれたおばあちゃんと、朝夕のお勤めで面白半分に覚えた正信偈でした。そんな家庭づくりが大切でした。訪ねた夜、約束の7時すぎに大急ぎで帰宅し、ネクタイもとらずに力強く歯切れよいお話をいたただいた。終わった後は、訪ねてきた朋友を加えての語らい。「12時前に訪問客を帰すのは失礼なんですよ」とつっこみ思いましたね」

「こちらが夜だったらヨーロッパは朝ですね。今日たのも仕事は夜8時までにファクシミリに入力し、返答を待ってから帰る。これ

(慶)

よこがお
様見

「如來の教法をわれも信じ、ひとにもおしえきかしむる——」ところにこそ、信心の自然の姿とはたらぎがあるのでなかろうか。

「度衆生心」などといえ

ば、すぐに「自力だ、懶慢だ」ときめ込んで「私は

お聞かせにあずかるばかりです」と、へりくだりの世界へ逃げ込んでしまうところには、他力どころか自力さえもない。その無力教門

徒によって教団の生命は涸渴してゆくばかりである。

「天地に満つる力なり」他力の外に自力なし

自力の外に他力なし

め、「度衆生心」ということは、弥陀智願の回向なり」という世界に立たしめられるところにこそ、「回向の信樂」があり、「大般涅槃」といわれるのではなく